世界農業遺産とは？

世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems:GIAHS（ジアス））は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。2018 年 2 月現在、世界で 19 ヶ国 47 地域が認定され、そのうち日本では 9 地域が認定されています。

世界農業遺産認定の効果

地域固有の農業の価値が世界的に認められることで、地域の人々に誇りや自信をもたらすとともに、農林水産物のブランド化や観光客誘致を通じた地域経済の活性化が期待されます。

また、認定地域同士の交流など、国内外との連携強化も望めます。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標（SDGs）の 17 の目標のうち、特に「6 Clean Water（安全な水を世界に）」、「14 Life below Water（海の豊かさを守ろう）」、「15 Life on Land（陸の豊かさも守ろう）」、「17 Partnerships for the Goals（パートナーシップで目標を達成しよう）」の達成に寄与するものです。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会

会員大募集！

年会費 参加費 無料

みんなで滋賀から世界農業遺産を創ろう！

琵琶湖と共生する活動のネットワークを広げよう！

滋賀の農林水産業を次世代へ継承しよう！

「世界農業遺産」の認定に向けた取組の推進や、力強い農林水産業づくり・活力ある地域づくりに向けて、県民、民間団体、企業、大学、研究機関、地方公共団体など多様な主体が連携のもと、活動を行うことを目的としています。詳しくは、下記事務局までお気軽にお問い合わせください。

おいさで漁

ヨシ刈り活動

実り豊かな「環境こだわり米」

河川を遡上するビワマス

企業も参加する森づくり

「世界農業遺産」プロジェクト facebook ページ

琵琶湖と共生する滋賀独自の農林水産業の姿など、「世界農業遺産」を目指す取組をお伝えしています。

会員申込・お問い合わせ（事務局）

滋賀県 農政水産部 農政課 世界農業遺産推進係

滋賀県大津市京町四丁目 1-1

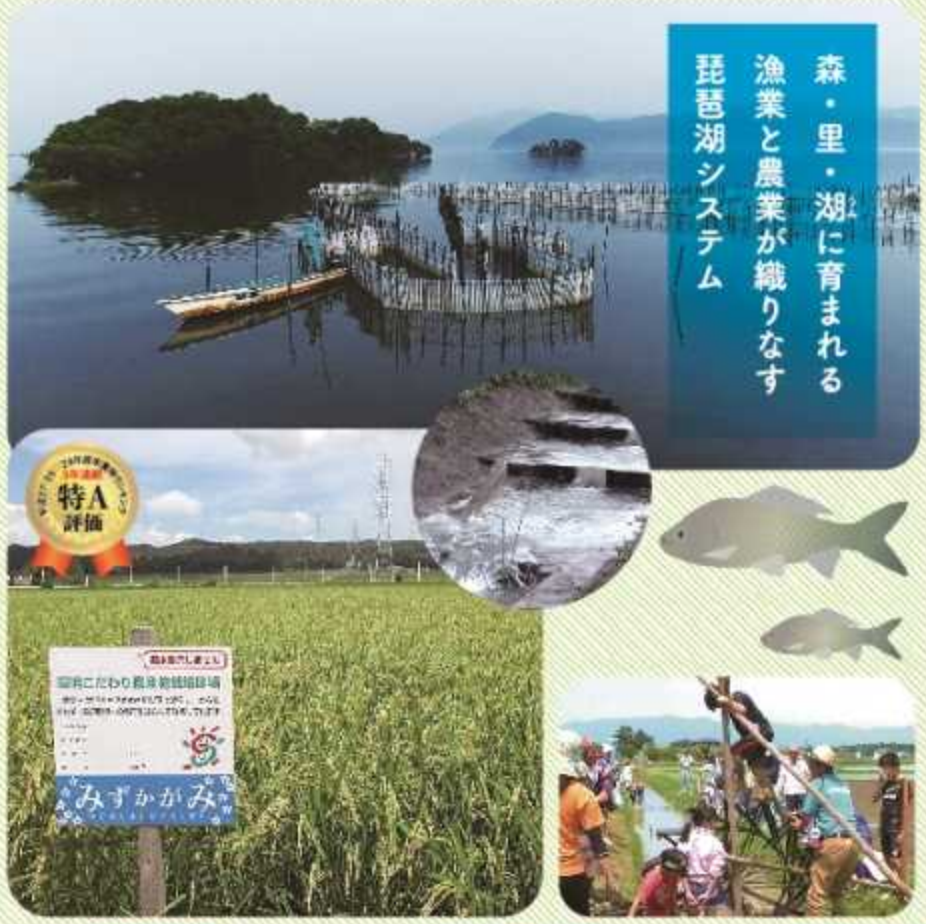
TEL.077-528-3825　FAX.077-528-4880

shiga-giahs@pref.shiga.lg.jp

世界に誇る“琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業”

「世界農業遺産」

認定をめざして



滋賀県・琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会

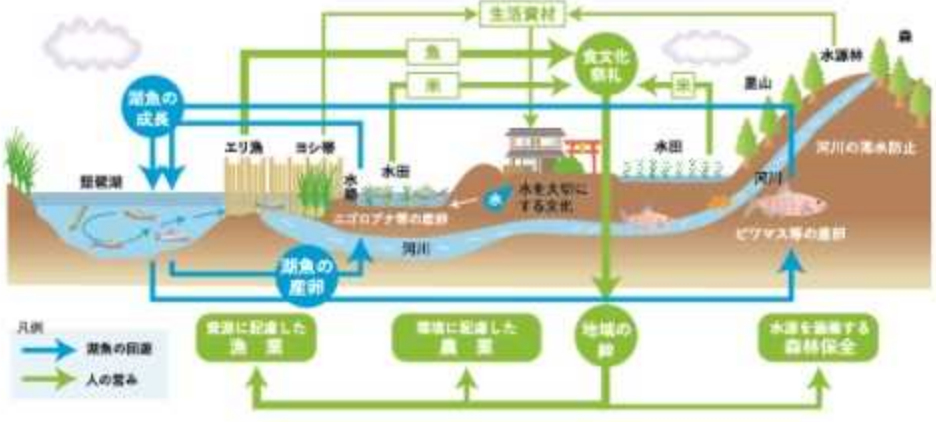
琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を「世界農業遺産」に！

～森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム～

琵琶湖周辺の水田は、琵琶湖の固有種であるニゴロブナなどの湖魚に絶好の繁殖環境を提供してきました。こうした水田やヨシ帯などに向かってくる湖魚の生態を巧みに利用してきた「エリ漁」は、資源にやさしい伝統的な「待ちの漁法」の代表格です。また、河川に遡上する湖魚の産卵環境の保全に寄与する多様な主体による森林保全の営みや琵琶湖の環境に配慮した農業など、森、川、水田、湖のつながりは、世界的に貴重なものです。

このような琵琶湖と共生する農林水産業（琵琶湖システム）は、千年以上に渡って受け継がれてきたもので、「世界農業遺産（注）」としてふさわしいものです。

（注）世界農業遺産は、伝統性（持続可能性）、独自性、世界的重要性の高い農林水産業システムを国連食糧農業機関（FAO）が認定するものです。



湖魚が産卵にやってくる水田（魚のゆりかご水田）

●ニゴロブナは、琵琶湖の固有種で、その産卵・成育には、湖辺の水田が大きな役割を担っています。この湖魚は、繁殖期を迎える5月頃、琵琶湖のヨシ帯や水路を遡って水田までやってきて産卵します。

●この時期の水田は、水が温かく、プランクトンなどの餌が豊富で、外敵が少ないことから、稚魚の成育に適しています。

●水路との間で水位差が生じた水田では、水路への堰（魚道）の設置により、水田に魚が遡上する昔ながらの「魚のゆりかご水田」の営みを継続しています。

●こうした水田は、水産資源の保全とともに、豊かな生きものを育む水田として、生物多様性の保全にも寄与しています。

伝統的な「待ちの漁法」と資源管理

●琵琶湖漁業を代表するエリ漁は、平安時代の和歌に詠まれるなど、千年以上の歴史を有する伝統漁法です。

●エリ漁は、琵琶湖を回遊する湖魚の生態を巧みに利用し、ツボと呼ばれる部分に魚を誘導して捕獲する待ち受け型の漁法です。この漁法は、必要な量だけ漁獲できるもので、漁業者は、限りある水産資源に配慮した漁を続けています。

●エリの設置制限や禁漁区の設置など、江戸時代から続く資源管理の考え方も、現在に受け継がれています。

琵琶湖の環境に配慮した農業

●琵琶湖の水質や生態系保全のために、多くの農業者が「環境に配慮した農業」や「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」などに取り組んでいます。その結果、農地は多様な生きものを育む場にもなっています。

●「環境こだわり農産物」は、農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下にして生産されたもので、栽培面積は年々拡大しています。また、化学合成農薬の使用量は、取組開始以降、約4割減少しています。

水源林の保全

●琵琶湖を取り巻く山々では、明治時代以降、森林緑化が進められました。これにより、洪水防止や河川の渇水防止が図られ、河川を遡って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっています。

●琵琶湖の漁業者や林業者、県民が協働で植林を行う「漁民の森」や企業の森づくりなどにより、水源林の保全が図られてきています。

フナズシなど伝統的食文化と祭礼

●食文化の中心は、湖魚を米に漬けこんで発酵させる保存食で、近年、健康面での価値も見直されているナレズシです。

●中でも、フナズシは、贈答品や祭礼の供え物として用いられ、人々の絆の醸成にも寄与してきました。

●現代では、この絆の輪が広がり、多様な主体の参画による「琵琶湖システム」の継承につながっています。